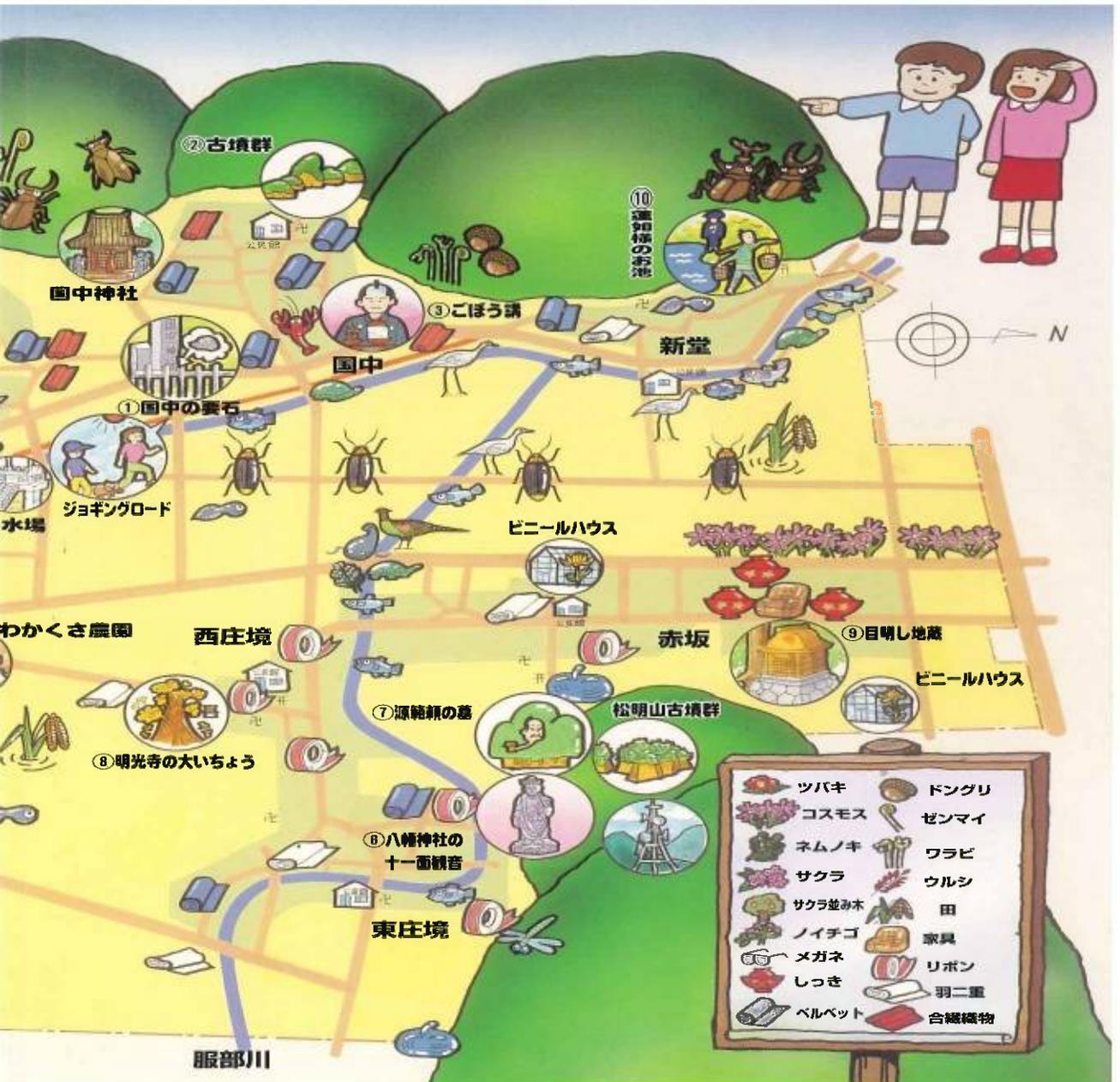


南中山の 見どころ



南中山地区自治振興会

わたしたちの誓い

越前市民憲章

わたしたちは、恵まれた自然と輝かしい伝統にはぐまれた越前市民です。

この郷土を愛し、心と力をあわせ、なおいっそうの発展をめざすため、次のことを誓います。

- 一 わたしたちは、日野の峰のように、高い理想をいただき、豊かな未来をきずきます。
- 一 わたしたちは、日野の流れのように、うるおいと安らぎのある環境をつくれます。
- 一 わたしたちは、桜の木のように、力強くすこやかに成長します。
- 一 わたしたちは、菊の花のように、やさしきと思いやりをもって助けあいます。
- 一 わたしたちは、国府の文化と匠の技を生かし、学びの輪をひろげ、世界にはばたきます。



越前市 の 木 きくら

越前市 の 花 きく

表紙のマップ 「南中山ふるさとマップ」

平成6～7年 南中山小学校が「ふるさと学習」の一環として、地域の人たちの協力を得ながら作り上げたものです。地図上の番号は、当時調査した遺跡や文化財等の番号であり、この本文とは直接関係がありません。

はじめに

現代は、物が豊かで便利な社会となりましたが、祖先は子や子孫の為に、平和で安全安心な社会をめざして努力し、その歴史の中に学ぶべきものは沢山あると思います。

現在、集落や地区に残る伝承や地名の由来、祭り、伝統行事、慣習など、貴重なふるさと文化が急速に失われつつあります。

南中山地区に残る歴史や文化財は沢山ありますが、私たちは、地域や集落の中に、先人たちが残した伝統文化を知らない世代に伝えていくことは大切なことだと思います。その集落民だけが知っているだけでなく、集落に現在も残っている自慢できるものや、知られていないものを掘り出し、それらを広く知らせるだけでも意義のあることだと思います。

今回、その数ある伝統文化遺産の一部を紹介します。誰もが伝統・文化に触れ、大事にして行こうという気持ちを持って、集落や地区の財産として次世代に引き継ぐことを願っております。

この「南中山の見どころ」執筆編集にあたり、集落の語りべ、調査員、協力者の皆様、伝統文化部会員各位には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

平成19年5月吉日

南中山地区自治振興会長 山田博夫

凡例

- 1 掲載順は越前市行政順とし、文章の形態は「です」「ます」体としました。
- 2 年号は和号を用い、西暦を和年号の後に（ ）で示しました。
- 3 典拠引用文については、文の後に【 】で示しました。又、参考にした主な本、引用文献、著書は一覧で示しました。
- 4 指定文化財と文化財の所蔵者は〔 〕で示しました。
- 5 写真、図は執筆者が撮影及び所蔵者の承諾を得たものを使用しましたが撮影年月日、撮影者名は省略しました。
- 6 中山音頭は、踊り振り付けを文で表し、楽譜は既存のカセットテープを聞き採譜しました。

【目次】

1	獅子返し	(野岡町)	1
2	白山神社の御神水	(野岡町)	
3	若衆報恩講・尼報恩講	(野岡町)	
4	薬師神社・薬師如来立像	(野岡町)	2
5	逢坂山公園	(野岡町)	
6	古川木戸兵衛家の柱傷	(野岡町)	
7	町名の由来	(マインドタウン)	3
8	納涼祭	(マインドタウン)	
9	レクリエーション大会	(マインドタウン)	
10	木造十一面観音菩薩立像	(山室町)	4
11	用水池	(山室町)	
12	清水池	(山室町)	
13	獅子返し	(山室町)	5
14	町名の由来	(富士見台)	
15	夏祭り	(富士見台)	
16	下戸板の歴史	(下戸板)	6
17	木造十一面観音菩薩立像	(東庄境町)	
18	獅子返し	(東庄境町)	
19	不動明王	(東庄境町)	7
20	日吉御前・源範頼墓石	(東庄境町)	
21	明光寺の大イチョウ	(西庄境町)	
22	集団疎開のお礼状	(西庄境町)	8
23	飛出面	(西庄境町)	
24	金比羅宮	(赤坂町)	
25	目明し地蔵	(赤坂町)	9
26	御除地の標石	(赤坂町)	
27	石造地蔵菩薩立像	(赤坂町)	

28	松明山・盆山古墳群	(赤坂町)	10
29	獅子返し	(赤坂町)	
30	地名の由来と永林寺	(新堂町)	
31	蓮如様のお池	(新堂町)	11
32	源氏物語図六曲屏風	(新堂町)	
33	羽柴秀吉禁制	(新堂町)	
34	惣田正月十七日講(ごぼう講)	(国中町)	12
35	六日獅子と獅子返し	(国中町)	
36	要石	(国中町)	
37	国中神社	(国中町)	13
38	国中絵図	(国中町)	
39	石造層塔	(中津山町)	
40	七岩七清水	(中津山町)	14
41	国中神社	(中津山町)	
42	獅子返し	(中津山町)	
43	洗足の滝	(中津山町)	15
44	仲山町誕生と町是	(仲山)	
45	区旗	(仲山)	
46	清順会となかなか祭	(仲山)	

【資料編】

○ 南中山地区 見どころマップ	16
○ 中山音頭・中山音頭について	17
○ 南中山地区 指定文化財一覧・寺社一覧表	18
○ 南中山地区 遺跡・古墳群	19

編集後記	20
------	----

1 獅子返し

野岡町

天正の頃、三里山に住む猪が、しばしば人里に現れては人畜に危害をくわえました。そこで朝倉の家臣で槍の名手清水源之進に猪退治を頼みます。3頭の猪が現れました。この時しとめたのは1頭でした。2頭の猪はその後にも害を及ぼすので、村民と相談して大工の右門五郎に獅子頭を彫らせ、布をつけてかぶり、村民は鍬や竹槍を持ち、金たらいや太鼓・鍋を打ち鳴らして、「猛獣殺喜、猛獣殺」と叫びながら猪を追っ払いました。



2 白山神社の御神水

野岡町

白山神社の境内には干ばつにも涸れることのない湧き水池があります。茶水や手洗い、一部は鳥居横に導水してうがいや手水に使って使っていました。本殿新築の際、岸壁より豊富な神水があふれ出てきたので、現在は御水舎に導水しています。夏の猛暑時にも、とうとうとしてあふれ出る水に野岡地区の人たちだけでなく、近隣地区からも多くの方が水を汲みに訪れます。

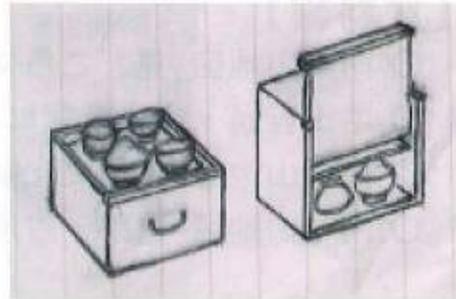


3 若衆報恩講・尼報恩講

野岡町

12月中旬の報恩講当日、青年団の団員が雑用費を集め、大根の味噌汁や和え物を作ります。参加者は、さげたじの中へご飯を盛ったお椀や汁椀など数個のお椀を詰め寺に参ります。読経の後、食事となります。さげたじのふたを開けお椀類を取り出し横にすると箱膳になり、便利なものです。ご飯に味噌汁、大根の和え物などを頂きますが、持ち帰ることもあります。

当日は、まずお参りに誘う鐘をつきます。次にお伝書や説教などの仏事を行って終わります。現在は当番制で、若衆・尼合同で一度に行っています。



4 薬師神社・薬師如来立像

野岡町

県学芸員の調査により、平安後期の作とのお墨付きを得ました。元禄12年(1699年)8月に旧社殿を再建した墨書棟札があり、これに「帰命当社本地医王善道如来」と書かれています。従来より靈験あらたかとされ、神殿内には20数個の猿の石像があります。願かけて病の癒えた信者が奉納した物です。鰐口は、安政2年(1855年)京都在住の佐々木某より奉納とあり、さがりの布には各々奉納者の名があります。



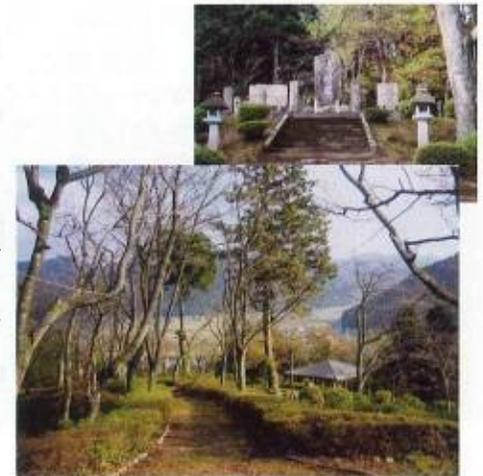
5 逢坂山公園

野岡町

野岡の起源ともいわれる逢坂山からの眺望は見事で平野を一望できます。

明治初年から村民の手により整備が始まり、桜や広葉樹の植樹が進みました。忠魂碑は明治40年当時の青年会の協力で建立されました。乃木希典大将の揮毫による碑文です。芙蓉社、宗匠、梅雨軒蓑笠(榎木利平)、巖負亭千山(林清右エ門)の句碑、山村芳堂、加藤霞月(嘉左エ門)の碑なども点在しています。

戦前、春祭りの4月8日には村民挙げて重詰めなどを持ち寄り、酒食を共にして山行きを楽しみました。



6 古川木戸兵衛家の柱傷

野岡町

明治6年(1873年)寺院統廃合したり、仏教をやめてキリスト教を入れるという噂が流れて、越前大一揆(ポロンカ騒動)が起りました。明治新政府に不満を持っていた多くの人々も参加しました。今立郡では、戸長が人々に散髪を強制したことがきっかけとなり「一揆に参加しない家は焼き払え、参加しない寺は耶蘇だ」などと叫び数千人が竹槍等を持って参加しました。古川木戸兵衛家も襲われました。この時の鍬傷の跡が今も柱に残っています。



7 町名の由来

平成7年「潤いあふれる快適な生活空間の創造」をめざして、南越中学校北側に住宅団地ができました。「マインドタウン」という町名は、公募に応じた中から選ばれました。

総区画数は36で、コミュニティスペースとしての公園や防火水槽など公益施設も整備されています。



マインドタウン

8 納涼祭

平成10年にマインドタウンが新しい行政区となって以来、福井豪雨で中止になった年以外は、毎年行っているマインドタウン区で最も大きな行事です。

8月の第4土曜日に、マインド区の中央通りと公園を会場に行っています。会場にはトラックを利用した舞台がつけられ、カラオケや福引きなどが行われます。また、焼きそばや焼き鳥、おろしそば、生ビール、くじ引きなどの模擬店もつくられ、区民の親睦を深めるよい機会となっています。



マインドタウン

9 レクリエーション大会

平成14年から、南越中学校や南中山小学校の体育館を会場として、毎年6月の第4日曜日に行っています。

区を1・3班をブルー組、2・4班をイエロー組に分け、2つの色が対抗します。子どもたちの参加するパン食い競争や大縄跳び競争、大人中心のお楽しみリレーや玉入れ競争などの種目で得点を競っています。レクリエーションの後には、別会場で親睦会が計画され、楽しい区民の交流の場となっています。



マインドタウン

10 木造十一面観音菩薩立像

山室町

山室町の白山神社の本尊で、像高は156cmあります。ヒノキ材で左肘・右は手先までを含んだ一木彫りです。目を伏せた穏やかな表情の観音立像です。

胴をしぼり、下半身はゆったりとした彫刻で、平安中期、10世紀後半から11世紀前半に造られたものです。
〔市指定文化財〕



11 用水池

山室町

通称「つつみ」と呼ばれています。山室町の山すそにあり、明治初年に造られ、その後2・3回の改修が行われています。昔は村のプールとして使われ、夏は子どもたちの遊び場でした。現在は灌漑用・防火用水として重要な役目を果たしています。

満水時表面積 約 2530 m²
堤長さ 88 m
貯水量 約 9600 トン
有効水深 約 4.7 m



12 清水池

山室町

山室の神社近くにあり、区民からは、「神（上）清水」と言われています。末期（まつご）の水は、この清水を与えたとも伝えられています。

一説には、服間地区の赤谷の水が山室に湧出しているとも言われています。清く澄んだ水は、大雨でも濁らず、真夏でも減少することはありません。



13 獅子返し

山室町 一十部木

福井県立図書館・福井県郷土誌懇談会共編「越前国名蹟考」によると、「山室」は鯖江領野岡枝村と記されており、獅子返しの行事もおそらく野岡村の行事を引き継ぎ、次第に山室独自の行事として変化したものであろうと思われます。



14 町名の由来

富士見台 木沢園

昭和62年、戸板山西側のふもとに、雇用促進住宅が建てられました。鉄筋コンクリート5階建ての住宅が2棟あり、80戸入居できます。敷地内には集会場や自転車置き場のほかに、子どもたちの遊具施設も設置されています。「富士見台」の町名の由来は、小富士山が、同住宅の西方正面に最も均整のとれた姿で望むことができるからです。



15 夏祭り 富士見台

毎年7月に実施されます。焼き鳥、焼きそば、フランクフルトなど多数の模擬店が出されます。内容は、その年の役員で協議し、毎年趣向を凝らした楽しい催し物があります。平成18年の夏祭りでは、宝探しゲームやサッカーゲーム、お化け屋敷、ビンゴ大会などがありました。バンドショーやよさこいの踊りもあり、区民の楽しい交流の場となりました。



16 下戸板の歴史

下戸板

昭和37年、住宅難解消のため高率国庫補助適用による公営住宅が10戸、戸板に建設されました。それまでの住宅は6畳と3畳でしたが、新しい公営住宅は、6畳と4.5畳の間取りに改められました。



17 木造十一面観音菩薩立像

東庄境町

東庄境の八幡神社境内に別堂として観音堂が建立されています。榎(かや)の一木造で、目を伏せるおだやかな丸顔、なだらかな肉付け、ゆるやかな動きを示す体、簡素でおだやかな衣文の彫などからみて、平安末期の作とみられます。全国各地から観音信仰の人々が参拝に来られます。

[県指定文化財]



18 獅子返し

東庄境町

明治の初めまで、祭礼時には、朽飯の八幡神社の獅子が、東庄境の浄円寺までお渡りがありました。その後中止になったので、東庄境の大工市橋さんが獅子頭を制作し、若者による獅子返しを始めた。お渡りの行列は、他の集落とほぼ同じです。

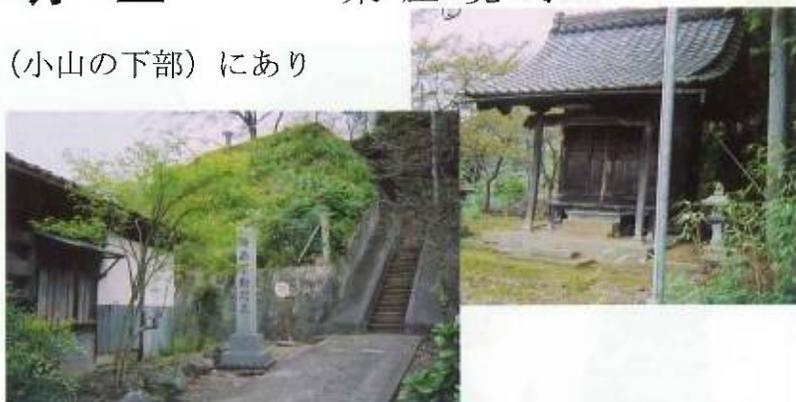


19 不動明王

東庄境町

昔は、清水付近（小山の下部）にありましたが、馬に乗ってその前を通ると落馬するので、藩主の命により現在の山頂にうつされました。

3月14日には祭礼が行われます。
【南中山村誌より】



20 日吉御前・源範頼墓石

東庄境町

藩冠者源範頼公は、兄頼朝公の忌諱に觸れ当地に逃れて住んだと言われています。浄円寺はその妻日吉御前が範頼公を弔わんがため建立された寺です。

墓石は当初八幡山中腹にありましたが、現在は東庄境の墓地の最上段の左方にあります。
【南中山村誌より】



21 明光寺の大イチョウ

西庄境町

雌イチョウで、高さ26m、目通り5.5m、枝張り19.3m、生育良好、樹勢は盛んで、寺伝によれば、文明6年（1475年）蓮如上人の恩許を受けて寺号を賜った際、朽飯から移植したというもので、県下最大のイチョウの巨樹です。

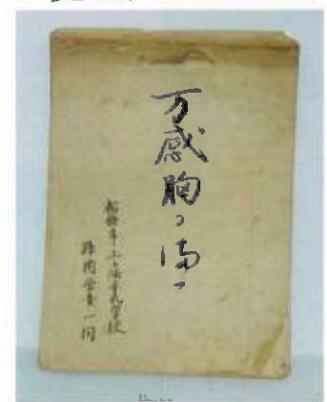
〔県指定文化財〕



22 集団疎開のお礼状

西庄境町

昭和19年（1944年）わが国の各都市が空襲を受けるようになってくると集団疎開が行われるようになり、受け入れ宿舎として、南中山地区では西庄境の明光寺があたり、大阪の小学校の児童たちが疎開してきました。疎開をしていた児童のお礼の手紙が、明光寺に残っています。
〔明光寺 所蔵〕



23 飛出面

西庄境町

面長22cmで、眼球が飛び出しているところから「飛出面」とも言われています。

室町時代、出目満照の叔父である三光坊（先秋満広）の作と伝えられています。大火の際、屋根に持ってあがると火勢が鎮まり類焼を防いだことから「火伏せの面」として祀られています。

〔市指定文化財・日野岡達彦氏 所蔵〕



24 金比羅宮

赤坂町

神社裏の山道を登った山頂に金比羅宮が建っています。これは天保15年（1844年）に、一信者が讃岐の金比羅さんより不動明王のお札とお守りを奉戴し、ここに祀ったものです。

毎年7月9日に、区の老人会の世話によって祭りを行っています。作業用林道が近くを通ったため、足の弱い老人も参拝可能となり、祭りは約50名の参拝者で賑わいます。



25 目明し地蔵

赤坂町

赤坂では近年北部開発が進み、北に向かって大小7工場と住宅11軒が建ったため、村のはずれにあった地蔵堂は、今では村の中ほどに位置しています。この地蔵尊は、信仰、お祈りをする事により、目を患った人が治ったとの言い伝えがあり「目明し地蔵さん」と呼ばれています。毎年7月24日子ども会により地蔵祭りが行われ賑わいます。子ども地蔵太鼓も披露され、華を添えます。



26 御除地の標石

赤坂町

太閤の検地は、天正10年(1582年)から慶長3年(1598年)にわたり全国で実施され、秀吉時代に租税の基礎とされました。「除地」は由緒ある社寺の土地や名門の屋敷などに許され、検地から除外された租税免除の土地です。

この標石は、赤坂町常福寺の境内にあり「従是御除地」と記されています。



27 石造地蔵菩薩立像

赤坂町

三嶋神社の脇壇に合祀されています本像は、室町時代中期以降の作で、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、頭には円光背が彫られています。陰刻名は「永禄5年壬戌」(1562年)と記されています。

神社内に合祀されているのは、幕末以前の神仏混淆の名残りと思われる。



28 松明山・盆山古墳群

赤坂町

赤坂では松明山古墳2・3号墳、盆山古墳1・2号墳の4基の古墳が発掘されました。弥生時代中期より古墳時代中期までのものと推定されます。特に松明山2号古墳は規模が小さいにもかかわらず、多くの貴重な副葬品が出土したため、それらを一括して県の指定文化財に指定されました。代表的な出土品に「家屋人物獣文鏡」があります。また盆山1・2号古墳は副葬品より見て、鉄製品を豊富に所有していた豪族がこの地に存在していたことが判明しました。



29 獅子返し

赤坂町

赤坂は北中津山国中神社の氏子でしたが、嘉永3年(1850年)に分離したとのことです。

「獅子返し」もこれより赤坂独自のものが始められ、獅子頭は東庄境の宮大工である市橋泰治郎氏が、北中津山のものを参考にしてつくったと言われています。



30 地名の由来と永林寺

新堂町

康正元年(1455年)国中大明神三十八社の別当職であった真言宗宗匠院が、中津山より移って堂宇を建立したことにより、その地が「新堂」と呼ばれるようになりました。

文明3年(1471年)蓮如上人が宗匠院に逗留された際、初代道圓と門徒一同が浄土真宗(一向宗)に替わり、永林寺になりました。



31 蓮如様のお池

新堂町

文明3年(1471年)蓮如聖人が大津南別所より当国吉崎におもむかれる途中、新堂宗匠院に12日間滞在され、親鸞聖人の教えを人々に説かれました。このお池は、水不足との訴えに心を痛められた蓮如聖人のご指示により掘られたと伝えられる井戸で、清冷な水は夏の日照りにも涸れず、今日まで500年以上も寺族と門信徒によって守られてきました。



32 源氏物語図六曲屏風

新堂町

宇治十帖の前半六帖で画面が構成されており、もとは一対でなかったかと専門家は考察しています。構図や場面選択は他に類例が少なく、合理的で洗練された作風です。

源氏雲に用いられている金箔の方3寸(9cm)という大きさから、元和前後(1620年頃)を降らない年代性がうかがえます。

[県指定文化財 永林寺 所蔵]
[現在、福井県立美術館に寄託]



33 羽柴秀吉禁制

新堂町

天正11年卯月(1583年4月)の日付が見られます。本能寺の変の翌年、柴田勝家が賤ヶ岳において秀吉軍に敗れ、北之庄城で自害した時期です。宗匠院名で出されており、朝倉氏支配下浄土真宗は禁教されていたため、この頃はまた表面上は真言宗寺院の形をとっていたのではないかと思います。 [永林寺 所蔵]



34 惣田正月十七日講 (ごぼう講)

国中町

この講は、宝永2年(1705年)より現在まで302年間、連綿として続けられている伝統行事であり、毎年2月17日に行われています。最初は18戸で始まりましたが、現在は50戸の講人がおり、宿は毎年持ち回りで順次当番となっています。直会(なおらい)の料理は五合物相飯、たたきごぼう、丸揚げごぼうとたくあんの半切り、下駄割大根と焼豆腐です。

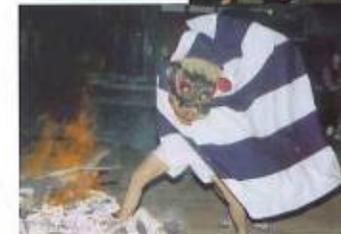


35 六日獅子と獅子返し

国中町

例年10月6日、神殿より大物様、小物様を締太鼓をたたきながら区長宅に運び、準備をして祭壇をつくり、10月10日には、区長宅・新築の家他2軒廻り、最後にたいまつ、提灯行列で神社に向かい、盛大に獅子を振り舞います。

青年団主催、壮年会協力で毎年行われています。



36 要石

国中町

太閤検地(1582~1598年)が行われたときに、総検地奉行を務めた長束正家が、越前の国の検地の中心になる石として定めたとはいわれています。



要石

37 国中神社 国中町

当社は、一国の中央にあることから、国中の社号がつけられました。延喜式神明帳所載の社です。国内神明帳に、従一位国中大明神とあります。従来は、国司郡宰（こくしぐんさい）信仰し、神地として寄付された社領は70町歩余りあり、当郡第一の社でした。

祭神は、越比古神、越比咩神、彦火火出見尊です。



38 国中絵図 国中町

万延元年（1860年）5月作成、山は山水画的に描写され、集落一戸ずつ描かれています。田畑は条里の名残をとどめており、領地も鯖江領と若狭領に分かれて支配されていたことが示されています。着色がされており、特に、鞍谷川沿いは畑地となっていた様子がよくわかります。

〔見延清右エ門氏 所蔵〕



39 石造層塔 中津山町

この層塔は、もと中津山と国中の境界線にありましたが、明治時代に現在地に移転されました。基壇は低くて三重に造出され、第一重の軸部へと続いています。軸部の大きさから見て、元来基礎部はなかったようです。笠は四重のみが残存しその上部の軸部を造り出す方式をとっています。相輪部は見当たりません。付近には2～3枚の笠が散乱していることから七重または九重の塔であったと考えられます。創建の年代に関しては確認できませんが、各要素を勘案すると、鎌倉時代末から南北朝時代にかけての作と推考されます。

【典拠 今立町誌第三巻 写真・図録編 森田藤則】



40 七岩七清水 中津山町

行司ヶ岳中津山地籍一体に七岩七清水の伝説があります。

昔、男大迹王が御休息されたという御前岩や、割岩、獅子岩、馬乗岩、銚子岩、鏡岩、立岩の七つの岩にそれぞれの伝説があります。また、藤田藤内の主従が弓術馬術を練習した際に休息した所にある休息清水や、稚児の池、瓜割清水、御前清水、待合清水、阿弥陀ガ池、洗足の滝の七清水にもそれぞれの伝説が残っています。



41 国中神社 中津山町

当社は、昔中山山上に鎮座の際は七堂伽藍を具備し、奉仕の社僧も多く、数個の坊舎もありました。中でも別当正官坊は禁裏（天皇）より代々法印の位を賜ったのに、天正の頃兵乱のためことごとく焼失しました。その遺跡は今尚存し、境内には法印の吊魂塔があります。地字正官坊と称する広さ二町二反歩はその跡で、同坊に授けられた御朱印地でしたが、後に土岐伊予守の領地となってから新田と命名して、30石1斗2合の貢米を課せられるようになりました。

【福井県の伝説より】



42 獅子返し 中津山町

国中神社の秋季例大祭の宵宮（第1日）に獅子返しの神事が行われています。午後6時に神下ろしの儀が行われてから、宮司と区長を先頭に、青年団員約20人が「ソーサケモンソ・ホイホイホイホイ」と掛け声をかけながら、剣先、提灯、太鼓、獅子頭の行列を作って区長宅、宮総代宅へ向かいます。



43 洗足の滝 中津山町

洗足の滝は、高さ3丈7尺余り(約11m)で中津山七清水の一つと伝えられています。

この滝は、越前の耕地を開く際、行司ヶ岳において男大迹皇子(継体天皇)が検視され、従者を残しこの地方の開祖としました。この村の開祖はこの滝にて初めて足を洗い上流谷間に居を構えたのでこの名があるといわれています。

【福井県の伝説より】



44 仲山町誕生と町是 仲山

昭和15年仲山町が誕生しました。当時の宣言文、町規約決議文、記録簿等が現存されています。

平成2年、区制50周年事業の実行委員会を設け「なかやま五十年史」を発刊しました。沿革の大要、10年きざみのあゆみ、各団体の活動等多彩に渡り記録されています。



45 区旗 仲山

全体で「仲」、中心の矢印が「山」を表しています。「仲」の楕円形は人々が手を取り合い、仲間入りできる姿、左に入り込む線は「仲」のにんべんと躍動感を表しています。「山」の穂先は未来を象徴、深緑色で底知れぬ未知への挑戦と創造力を表現しています。



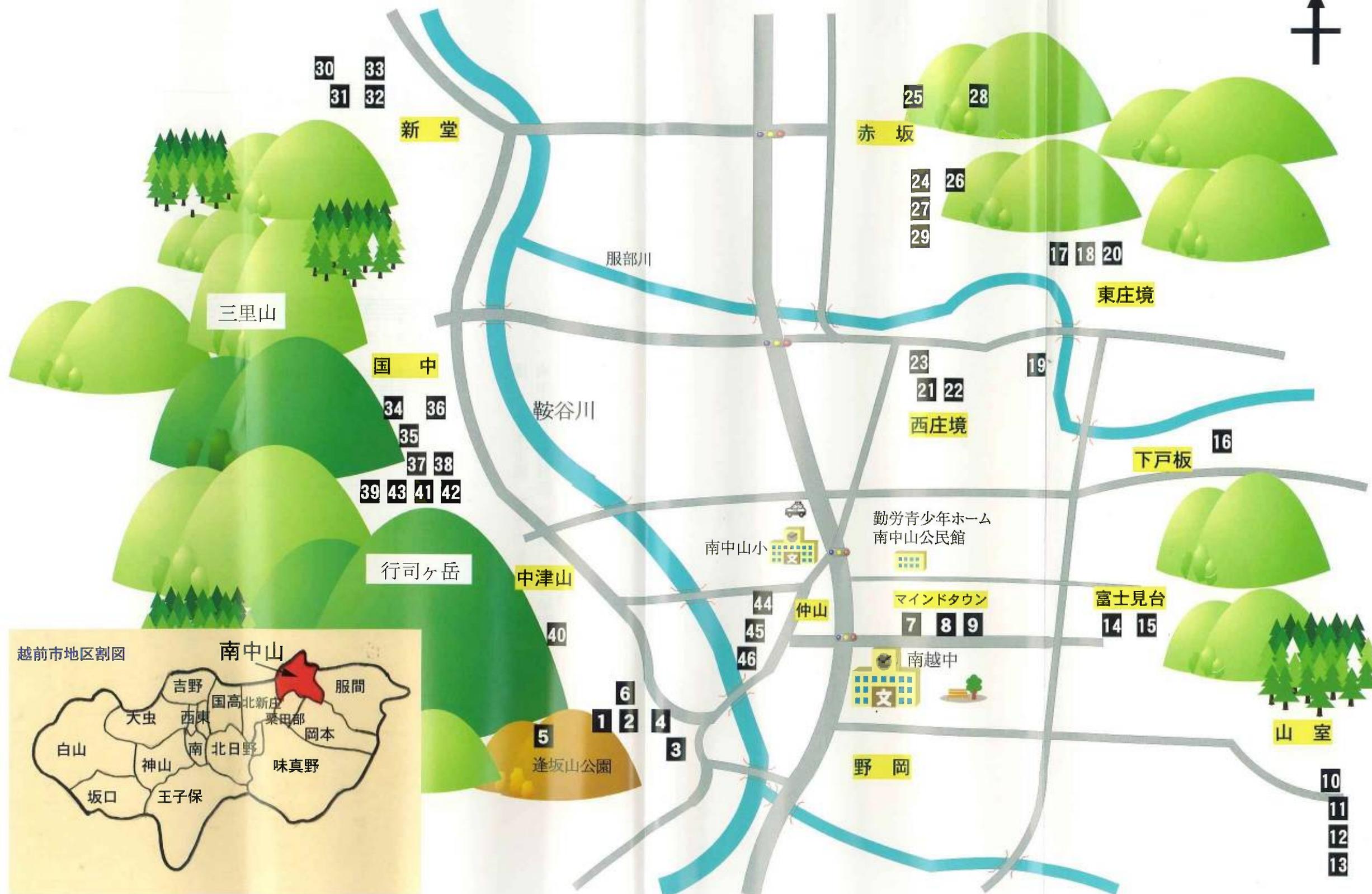
46 清順会となかなか祭 仲山

昭和52年、南中山地区でいち早く清順会(壮年会)が発足し、納涼祭や体育会を実施しました。数年後「なかなか祭」と改め、主催を区、連絡協議会に移行しました。企画・運営は現在も清順会が行っています。1部は体育会で、2部はレクリエーションをし、区民揃って親睦を図り、一日を楽しみます。



南中山地区 見どころマップ

地図中の番号は、本文中の番号です。



中山音頭

南中山村公民館選 (昭和二十七年頃製作)
唄 坂本正義 清水ゆき子

採譜 小柳和彦

ス で か よ う か で ん し ゃ で ゆ こ う か こ し の な か や ま
こ し の な か や ま は た ど こ ろ は た ど こ ろ そ ~ れ そ ~ れ
チャカトン トンチャカ チャカトントン

踊り振り付け

原作・榊原千恵子

〈体の方向〉

円の中心

進行方向
時計の逆

円の中心

- ① 四つ手をたたく。
- ② 右足一步前、両手手のひらを前で重ねる。
左足を右足に揃え、両手を上で開く。
右足から三歩下がりがりながら、両手は顔の前を通って上で輪(手のひらは上)四歩目で両足を揃える。
- ③ 右手右足をまっすぐ前。(手のひらは下)左手手のひらを顔の前。(オサの動く様)
(右、左、〳〳繰り返し)
- ④ 右足一步、両手で上に輪(指で三角形)左足一步、両手で下に輪(指で三角形)
(右、左、〳〳繰り返し)で自分の周りを一周する。
- ⑤ 右足前、軽く握った両手右横、右足後ろ両手左横、右へ流しながら三歩円外へ。両手上方、四歩目に、左足を右足後ろでトン(左も同じ)
- ⑥ 右足前、両手を下方で開き、右足を戻すと同時に一拍。
- ⑦ チョチョンがチョン(手をたたく)

(注 現行の踊りの振付です)

一 バスで通おか 電車でゆこか
越の中山 機どころ
ソーレソーレチャカトントンチャカ
チャカトントン

二 可愛いあの娘が えくぼで唄う
音頭とるよな 箴の音
(おはやし繰り返し)

三 越の中山 かなめの石は
昔太閤が すえたげな
(おはやし繰り返し)

四 柳芽とふく 鞍谷川の
土手とくるくる いきな人
(おはやし繰り返し)

五 日野と文殊の 行司の山は
歸したたる 小富士山
(おはやし繰り返し)

六 紅葉散る散る 逢坂山で
いとしいの娘が 待っている
(おはやし繰り返し)

八 雪で化粧の 小富士の姿
月にかざせば いじらしい
(おはやし繰り返し)

九 嫁にとるなら 中山おぼ
まめですなおで 絹の肌
(おはやし繰り返し)

十 変わるまえぞえ 二人の仲は
蒲の冠者と 日吉御前
(おはやし繰り返し)

十一 越の中山 ゆかりの里よ
うけて伝えて いつまでも
(おはやし繰り返し)

語句の説明

機どころ (織物業が沢山あり盛んな地域である)

箴の音 (織機の部品で縦糸を通す針金状の板)

かなめの石 (太閤検地の国中の要石)

太閤 (豊臣秀吉)

見にもおいでの (見に来て下さい)

変わるまえぞえ (変わらない)

蒲の冠者と日吉御前

(源範頼とその内室(妻)日吉御前)

中山音頭について

現在、南中山地区に残る唄・踊りに「中山音頭」があります。これは、地区の「ふるさとまつり納涼祭」、南中山小学校体育大会で今も継承されています。

今回、南中山の見どころを発刊することとなり、消してはならないものとして「中山音頭」について調べたことを紹介します。

当時、公民館主事をされていた越前市西庄境町の木津敏子さんに、中山音頭についてお聞きしたところ、昭和57年1月29日（金）付け福井新聞に、「地区民の歌」復活へ（今立）、お年寄りの資料がきっかけ、公民館長ら協力 曲付けて踊りも、という見出しの記事がありました。又、昭和57年8月20日（金）付け福井新聞では、「中山音頭」30年ぶりに復活 保存資料に歌詞 踊り付け区民に初披露（今立）の記事がありました。

歌詞については、公募により南中山村公民館選となっていますが、作曲は誰が作ったのか現在のところ不詳です。しかし、新聞の記事によると、当時南中山村婦人会長をされていた、越前市野岡町の故渡邊まさのさんが音頭の節回しをおおよそ記憶していたので、まず渡邊さんに歌ってもらいその節回しをテープに収録し、これを土台に専門家に依頼して、曲付けと曲に合った踊りを振り付けされています。

昭和57年「中山音頭」復活当時の公民館運営審議委員会と協議、地区振興協議会の協力を得て、公民館長の山田正信さん、主事の木津敏子さん、中山児童館児童厚生員の前田比露美さんが中心となって復活作業を行いました。

元公民館長山田正信さんにお聞きしましたところ、復活した原曲のテープ（昭和57年2月12日）とそのメモされたものが残っていました。

テープ	福井ニューサウンズ 指揮 武曾豊治先生 唄 坂本正義氏 清水ゆき子さん FBC 福井放送局業務連絡次長 荻原良治氏
踊り振り付け	榊原舞踊学院福井研究所 榊原千恵子先生（福井市手寄1丁目）

尚、楽譜は不明であることから、既存のテープを基にして、越前市野岡町の小柳和彦氏に採譜していただき、伝統文化部会員為沢さち子さん、日野岡由美子さんが編集したものです。

平成19年5月

（文責）南中山地区自治振興会長 山田博夫

【南中山地区 指定文化財一覧表】

福井県指定文化財

種別	名称	所在地
天然記念物	明光寺の大イチョウ	西庄境町
彫刻	木造 十一面観音菩薩立像	東庄境町
絵画	紙本著色源氏物語図六曲屏風	新堂町

越前市指定文化財

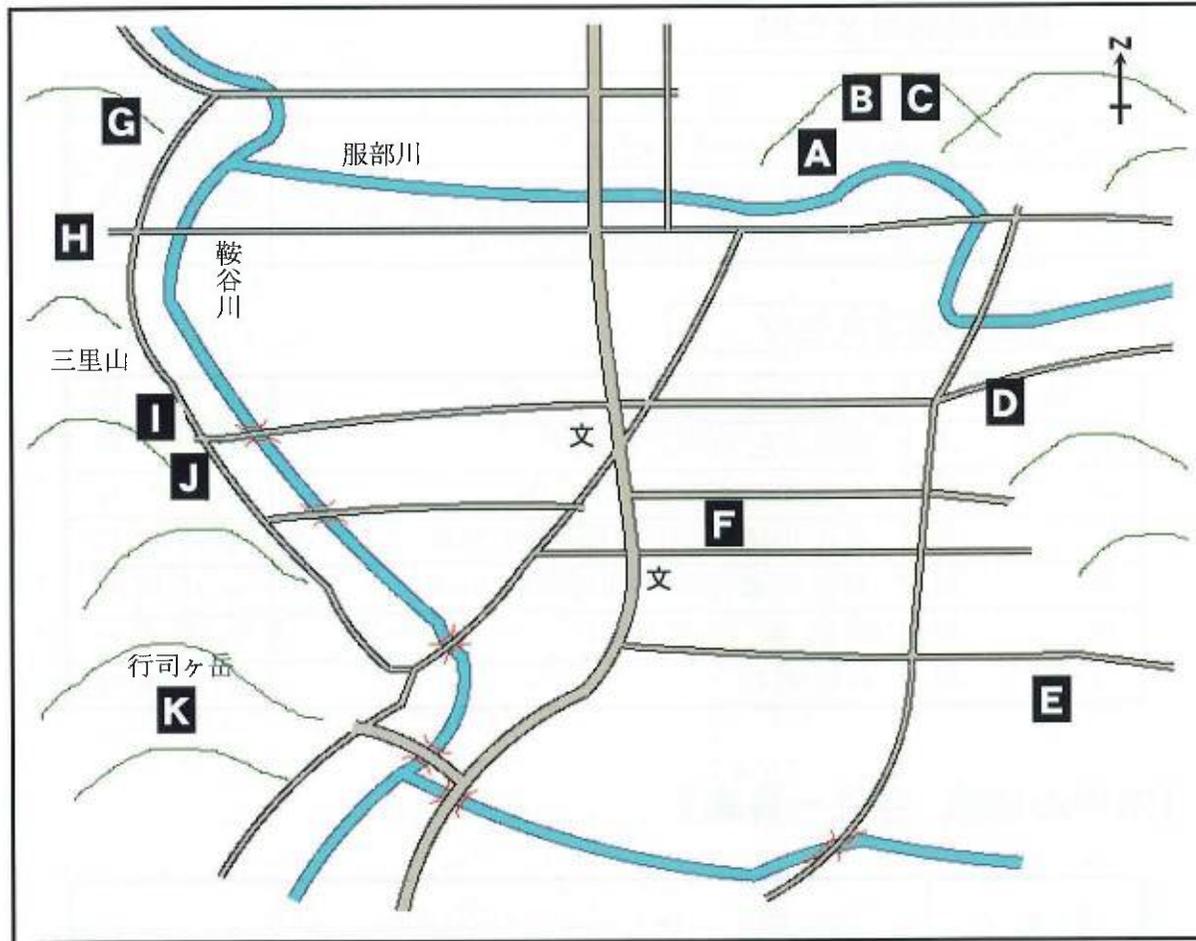
種別	名称	所在地
絵画	絹本著色 方便法身尊像	新堂町
彫刻	木造 十一面観音菩薩立像	山室町
彫刻	木造 地藏菩薩立像(像高64.0cm)	東庄境町
彫刻	木造 地藏菩薩立像(像高66.5cm)	東庄境町
彫刻	飛出面 (三光飛出)	西庄境町
工芸品	石造 層塔	中津山町

【南中山地区 寺社一覧表】

集落名	神社	寺院	
		名称	宗派
野岡町	白山神社	増円山 願教寺	真宗本願寺派
山室町	白山神社	西谷山 善休寺	真宗本願寺派
東庄境町	八幡神社	日吉山 淨円寺	真宗本願寺派
西庄境町	国中神社	多中山 明光寺	真宗本願寺派
赤坂町	三嶋神社	耀法山 常福寺	真宗本願寺派
新堂町	中山神社	霊水山 永林寺	真宗本願寺派
国中町	国中神社	国中山 長宝寺	真宗本願寺派
中津山町	国中神社	鴨谷山 淨光寺	真宗本願寺派
		高月山 妙弓寺	日蓮宗旧身延末

出典 「神社寺院調査資料第一集」

南中山地区遺跡・古墳群



- | | |
|----------------------|-----------------|
| A 盆山古墳群 | G 永林寺古墳群 |
| B 松明山古墳群 | H 長泉口古墳群 |
| C 松明山 19 号古墳群 | I 国中古墳群 |
| D 戸板山古墳群 | J 国中遺跡 |
| E 山室古墳群 | K 行司ヶ岳城跡 |
| F 見田京遺跡 | |

【編集後記】

私たちが住んでいる南中山地区では、古くからの歴史が数多く残っており、栄えていた様子が伺えます。現在も残っている集落の自慢できるものや知られていないものを洗い出し、それらをまとめ、冊子やパンフレット等で紹介することとしました。

地区民の皆さんが伝統・文化に触れ、大事にしていこうという気持ちを持っていただくことをねらいとして、平成18年6月より毎月1～2回の編集会議を行い作業を進めました。

各集落の伝統・文化にまつわる調査を、多数の方々に依頼し、冊子を作成いたしました。調査員の皆様には、各集落の培われた「見どころ」を掲載していただきありがとうございました。祖先が残してくださった伝統行事・文化遺産・食文化・伝統産業等、私たちにとって大切な宝物となって受け継がれています。

これからも、後世に語り、引き継がれ、南中山地区の伝統・文化遺産を守り、多面にわたり発展し続けますようお願いいたします。

南中山地区自治振興会 伝統文化部

部会長 白崎 三兵衛

参考にした主な本・引用文献・著書等

今立町誌各編〔第1巻本編 第2巻史料編 第3巻写真・図録編〕
(昭和57年 今立町誌編纂委員会)
南中山村誌 (昭和12年 南中山村役場発行)
今立郡神社誌 (大正8年 福井県神職会今立郡支部編纂兼発行)
福井県の伝説 (〔復刻版〕昭和48年 福井県鯖江市 鈴木昭雄発行)
越前若狭の伝説 (昭和51年 杉原丈夫編集)
神社寺院調査資料第1集 (昭和46年 今立町教育委員会・今立町文化財保護委員会)
若狭民謡大鑑 (昭和48年 杉本伊佐美著 福井県郷土誌懇談会発行)
広報いまだて縮刷版 (昭和61年 今立町発行)
旧南中山村に伝わる獅子返しの神事 (平成17年 林栄昭著)
いまだての歴史 (平成16年 今立町教育委員会 今立の歴史編集委員会)
今立町のくらし (今立町教育委員会)
ふるさと赤坂のあゆみ (昭和60年 赤坂区)
仲山区五十年史 (平成12年 今立町仲山区五十年史編纂委員会編集)

執筆編集関係者

執筆編集指導 真柄 甚松 (越前市文化課嘱託武生市史編纂委員)

執筆編集委員長 白崎 三兵衛

執筆編集委員 山田 儀男
山田 博夫
為沢 さち子
日野岡 由美子

執筆協力者 (敬称略 五十音順)

石本 峰夫	小柳 和彦	見延 徳治
上坂 兆寛	小柳 敏貞	山田 一夫
内田 嘉慧	林 栄昭	山田 敏夫
大柳 章	水野 傳太郎	山田 正信
蒲木 津敏	見延 傳左衛門	山本 潤一

編集発行責任者

南中山地区自治振興会会長 山田 博夫

「南中山見どころ」

発刊日 2007年(平成19年)5月30日(初版)
発行所 越前市南中山地区自治振興会
住所 〒915-0252 福井県越前市西庄境町21-7-1
南中山公民館内(勤労青少年ホーム)
電話 0778-43-1290 FAX 0778-43-7160
編集 越前市南中山地区自治振興会伝統文化部会
印刷 小柳印刷所
〒915-0264 福井県越前市野岡町25-2
電話 0778-43-0200 FAX 0778-42-0107

残そう 伝えよう 南中山のたからもの

